

職場に残そう、労働運動！

国労千葉地本運輸区統合分会 SOGA 班新聞

乗務員の兼務、大丈夫か？

異常事態の要員不足

毎年恒例となった当区車掌の要員不足がここに来て、今までにない

異常事態となっており、

年休も殆ど入らず、

休日出勤も当たり前となっており、加えて他業務との兼務によるもう

ロボロの苦肉？の策までまかり通っています。

補充なしは許されない！

昨年まで頻繁に行なわれていた本人希望な



しての駅への強制配転

等々も何だったのかという怒りを誰もが抱いています。

これほどの要員不足が続いても、補充することがないのは、噂通り、

次のダイヤ改「正」での特急全指定席化による

要員数の見込みなのかと思われませんが、これに

関してはもう少し確たる情報が入り次第、後日に

回します。だからと言って、会社の対応はあまりにも無責任過ぎ、絶対

許されません。

これは苦肉の策・・・

なんかじゃない！

前述の他業務との兼務（車掌）も、管理者を

始め、指導員、支社社員、

指令員、はたまた現役運転士までが対象となり、

負担、プレッシャーや疲労度等は大変なものかと思えます。

自分の本業をこなしながらの月平均1〜2回

程度の車掌業務で、両方共に集中することが出

来るのかと、誰もが不安

にもなり、その先にある安心安定輸送の確保は

守られるのかといった心配もあります。

誰もおかしと言わないのは何故？

会社側はこの兼務制度を、要員不足の対策で

はなく「柔軟な働き方改革なんちゃら」を推進しているのが狙いであり、要員不足の解消とは関係なく今後も続けるのではないのでしょうか。

当事者本人も、相当の不満があるはずで、これを当たり前にしては絶対ならないと思います。

今こそ、職場全体で「おかしなことはおかしい」と、はっきり言える職場

風土を作っていくべきです。自分本来の仕事に誇りを持つためにも！！

野村さん、ありがとうございました。

千葉地本の書記として、長年私たちを支え続けてくれた野村さんが、10月末で退職されました。国労ちば11月1日号には、ご本人より挨拶文が掲載されていますので、是非ご一読をお願いします。

組合の会計ということで、何から何まで一般とはかなり異なる環境の中で、業務を覚えることは勿論、頭の悪い私たちに親切丁寧に指導されることは、並大抵の苦勞でなかったと思います。何より、男だけの職場にたった一人入ることの恐怖心は半端なかったと思います。挨拶文の中で、年休、着替え時間についてや「出勤するのが嫌な時はなかった」「地本の皆さんの良い所は・・・」といった文章に本当に救われる思い

であります。

体調不良による退職は心配ですが、今まで頑張ってきた分、ゆっくり養生していただけたいと思います。

長い間、お疲れさまでした。ありがとうございました。



☆ 口に出すと、尚更辛くなることでも、はっきり自分の本音を言っていこうよ！！！！